

1970年、私は日本電信電話公社(電電公社、現NTT)に入社した。当時は入社後3年間、現場(電報電話局)、

すると各地の電報電話局に係長として任用される。

私の任用先は会津若松市であった。60〜70年代は労働運動が盛んで、会津若松局も労働関係の厳しさでは有名であった。

私見創見 Thursday

郡山から磐越西線に乗り換え、車窓から雪のちらつく寂しい景色を眺めているうちに会津若松に着いた。私を迎えた工局長は「お来たか。頭はほどほどでいいから、絶対つぶれない人間を」と本心に頼んだら君が来たんだ」と言われた。

中央学園(研修センター)、本社に配属され実務研修等を受ける。この期間を見習い期間と言っていた。それが終了

異郷で過ごす

南部・下北・会津・長州

の厚さに泣くこと、「三泣き」は去りがたさに泣くこと、である。

赴任した当初はある種警戒心を持って見られていたが、

ある日、職場のボス的存在の社員から「お前の出身はどこか？」と聞かれ、「青森は南部・三訂だ」と答えたところ相手の顔色がサツと変わった。



佐藤英明

東京青森県人会会長

さとう・ひであき 1947年、三戸町生まれ。70年、東北大学卒業。80年、日本電信電話公社に入社。その後、NTT東北支社、NTT東支社、NTT長支社、NTT長支社長などを務めた。2016年2月、東京青森県人会会長に就任。

「おお！斗南藩、我が同志！」と手を握ってきた。それから「三泣き」「三泣き」を経験したことは言うまでもない。

柴中佐率いる日本兵の戦いぶりについて、ロンドンタイムズ社説は「籠城中の外国人の中で日本人ほど勇ましく奮闘しない。日本兵の輝かしい武勇と戦術が北京籠城を持ちこたえさせたのだ」と評した。

また、会津白虎隊唯一一人の生き残りに飯沼貞吉がいる。彼は、後に私の職業上の先輩ともいえる仙台通信管理局工務部長に就任する人物であるが、戊辰戦争の中で新政府軍に捕えられ長州藩に引き取られる。会津藩の敵長州の人々に庇護され、複雑な感情を抱きつつも、その後電信技師の道を歩み、日本の電信電話の発展に貢献した。

南部出身の私が会津に赴任するほぼ100年前の1869年〜70年にかけて、戊辰戦争に敗れた会津藩から南部・下北地方に約1万7千人が移住している。旧三訂のうち、北郡、三訂郡、二訂郡に3万石を与えられて立藩した斗南藩の成立である。わが故郷・三訂町にも約800人の会津藩士とその家族が移住している。移住した人々の中でも最も辛酸をなめたのは下北半島

中、後に会津出身者で初の陸軍大将になる。

とやり遂げられない、と思うのである。